

自分の住みたい地域に根づいて暮らすために

第3回精神障がい者地域移行支援協議会

第3回目の地域移行協議会は、エリア別研修会の報告と、この地域で起きている課題を提起して「自分が住みたい地域に根づいて暮らすために、どんな体制があればよいか」を視点を検討しました

報告

エリア別研修はH27年から開始され、多職種連携による地域づくりのロードマップが作成されています。これまで精神障がい者で長期入院をしている方19名が退院しました。ピアサポート育成も進んでいます。H24年から地域移行、定着支援事業が開始されましたが、活用は少ないのが現状です。課題は関係機関の担当者の短期移動が多く、制度が浸透していないこと、入院している人が地域生活をイメージがづらいこと。環境整備ができていないことがあります。また、ピアサポーターの認知度を高めることが共に歩む気持ちを育むことになると思います

課題

地域課題はぽぽろの山下さんから中空知圏域で起きた事例を報告し問題提起をしました

- ① **障がい者の虐待が増加**：虐待のケースでは、事業所による権利侵害、家族・親族等による虐待がありました。共通して言えることは、ご本人が「これは虐待である」と認識を持つこと、自ら逃げたりSOSを出すことが非常に難しく支援者等が発見するケースが多かったことです
- ② **ゴミ屋敷、引きこもり支援増加**：ゴミ屋敷も増えており、現状では福祉サービスを入れられないため、支援者同士がゴミの片付けを行ったり、業者による片付けを入れた事例もあります。引きこもり問題では、精神的要因から事業所に通所できなくなった人もあれば、脱してB型通所に繋がった方もいます。また、入退院を繰り返す方が引きこもりにならないようにするには、どのような支援が必要か。地域移行や定着支援を含めて検討が必要です
- ③ **8050、9060問題の増加**：障がい者が65歳以上になった時や、すでにサービスを使用している高齢の障がい者に対する支援は、介護圏域の連携が必要になります

「このまま放置したら事件が起きる危険がある」、「早く見つけて、ひどくなる前にできることを考える」という視点が必要だと思います

グループワーク

3グループで検討しました。虐待はどここの市町でも通報が増えてきているようです。しかし、どう対応するかはそれぞれです。行政が調査に入らない場合はその後の支援が大切になります。市町村の専門性を向上させることや判断基準の整備化、病院や施設の閉鎖性の解消、何にも増して、多くの方が自分の尊厳を認識できるような情報提供、研修等が話し合われました。

地域の高齢化は直近の課題です。中空知は高齢化率41%以上。介護保険は当然ですが、医療、福祉、保健の連携強化が叫ばれています。ぜひ実現したいシステムです。

ワイワイ、がやがや自分の思いを語り合うことの楽しさ
顔を見ながら、うなずきあう嬉しさを体験しました

これから深めたいもの「虐待問題」「連携と情報共有システムの構築」
「8050、9060問題の深堀」次年度は互いに声かけあって、語りましょう。



みんなちがってみんないい

今年度の保健福祉フォーラムは令和7年10月7日13:00~16:00 地域交流センターゆうで開催しました。倶知安厚生病院精神科診療部長 土田正一郎先生の基調講演、2人のパネリストのトークセッションです。先生の「100人の話」参加者からお題をもらって語る「たねのはなし」等会場とフリートークをしながら、笑いながら賑やかに進みました。117名が参加してくれました。パネリストは、重く辛く大変だった自分が歩いてきた過程をさらりと語ってくれました。今回は、つむぎの家エルムの里（上砂川町）に通所しながら暮らしている村上さんの語りを

紹介します。



今のままで暮らしていこう

今日は私の歩んできたことを話します。7人兄弟の4番目です。

兄弟は仲が良く近所にも友だちがいました。

中学くらいから、勉強が追い付かないことが増えました。特に計算は苦手でしたがでも生活に困ることはありませんので、みんなと楽しく暮らしていました。

中学卒業後は、自宅から町にあった軍手工場に就職しました。

しかし、数年で倒産してしまいました。父ががんで亡くなってしまったので、家計を助けるために、兄が行っていた土木会社に勤めました。解体作業の仕事です。冬は除雪も行きました。遠くに行くこともあり、大変でしたが、8年間休まないで働きました。



そのうちに、会社の仲間から「車を買いたいので、自分の代わりにお金を借りてほしい」と言われ、自分は気が弱くて、断り切れず、相手が困っているのでは方ないと思い、サラ金で50万借りました。名義だけと言われたのですが、そうではありませんでした。サラ金からの取り立てで、自分のお金はありません。気持ちが落ち込みました。だまされたので仲間と顔を合わせるのが嫌で、仕事に行くのがつらくなりました。会社は辞めて家に籠り、外に出るのは恐ろしかったです。

家のことを手伝っていた時に今の事業所の人から「作業を手伝って」と言われました。家にいてもなんだかなあと思っていたので、時々行っているうちに、野菜の水やりや畑おこし、自分の植えたものが上手く育っているかなと畑のことが気になり畑作業が好きになりました。

私の良いところは、言われたことは真面目に最後までやりとげることです。機械操作も好きなので農機具や除雪機は使えます。

自分の弱いところは、気が弱いことです。人に嫌だと言えず、借金までさせられました。人に合わせてしまい、自分の思っていることが言えないこともあります。



この事業所にきて、療育手帳をとり、年金をもらうことになりました。気持も安定してきました。自分は、農作業が好きです。一人のできる、畑をおこし、苗をうえ、草を取り、収穫をする。順序が決まっているので間違えないで作業ができます。

夏は暑く、雨がふると汚れるし、力仕事です。大変なことも多いですが頑張れば、良い野菜ができます。ししとう、ねぎ、豆、かぼちゃいも、ミニトマトができます。

これからも、指導員さんと相談しながら、自分なりにできることを、コツコツとやっていきたいです。

サテライト紹介

サテライトはどんなところ？

サテライトは、病気や障がいのある方や自宅に引きこもりがちの方々が交流をしたり憩う場所です。自身の病気や障がい・暮らしなどについて語り合ったり季節のイベントや体づくりをしています。また、家にいるのが辛いときの居場所です。

日帰り旅行

増毛・留萌に行きブドウ狩りや海岸散歩をしました。バッファローやデラウェア等たくさんの種類のブドウを食べ比べたあとはおいしい海鮮丼を堪能しました！



そば打ち体験

地域交流センターゆうでそば打ち体験しました。自分で打ったおそばは格別でハマります！



ぽぽろ縁日

サテライトのパネル展示をしました。くじ引きやヨーヨー釣りくるみ会パン、「エルムの里」の野菜販売をしました。地域の方々も参加してくれてにぎやかで楽しい時間をすごしました。



語ろう会

自分の病気、生活のしづらさ、趣味や老後について等々いろんなテーマで語り合っています。



運動

YouTubeで百歳体操やヨガをしています。夏は市内をジョギングです。



ピアサポーター活動を紹介します

令和7年度のピアサポーターは6名です。新しい事業として、砂川市立病院、滝川市立病院にお邪魔をして「となりのぼぼろ」を開催しました。ゲームやひな人形、風鈴、お月見、クリスマスツリー…などペーパークラフトを楽しみ、お茶会は参加者の方々と沢山お話をし、ゆったりした時間でした。ほっ😊



ピアサポーターから
一言

私がピアサポーターになったのは、よくわからないまま誘われ入ったというのが正直な理由です。活動期間もまだ浅く、病院に訪問し、患者様とレクリエーション活動をご一緒しています。

スタッフよりピアサポート活動は「自分の体験を語れること」が大事と伺いました。語るのは良いのですが、誰にでも話すことは正直抵抗があります。

なぜかという、今まで話をしても否定されることが多々あったからです。

「そんなことくらいで・・・」「自分だってそんなことあるよ」等よく言われました。以前とある研修で、本人または家族が生きづらさを感じている人たちばかりでした。雑談の中でお互いの生きづらさを語るにより、これが話を聞いてもらえるということなのかと感じました。

「傾聴」という言葉があります。相手の言葉に耳を傾け、共感しながら相手を深く理解しようとするコミュニケーションスキルなのですが、そのようなことが自然にできるようになれば良いかと存じます



○社会福祉法人くるみ会 地域生活支援センターぼぼろ

住所 砂川市西1条北5丁目1-17
電話 0125-55-3101
FAX 0125-55-3102

○地域活動支援センターサテライト「憩いの場」

開所時間 平日9:30~15:30

